

教科「国語」シラバス

1. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語 (科目) 国語 I	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	3	中学 第1学年	『国語 I』(光村図書) 『標準漢字演習(5・2級)』(東京法令出版) 『ウイニング 国語 I』 『定期テスト対策 ワーク 国語 I』(光村図書) ※スタディサブリの通年講座から「中1 国語(光村図書 国語)」を視聴すると、教科書に対応した講座を視聴することが可能。
学習の到達目標	①基礎的な漢字や語句の知識を身につける。《知・技》 ②論説文を通して論理的な思考力を養い、本文と関連する主要な抽象概念を理解・習得する。《思・判・表》《知・技》 ③小説や詩歌など文学的な文章表現への理解を深め、親しみをもつ。また、創作活動を通して主体的に文学表現を味わう姿勢を涵養する。《主・多・共》 ④自分の考えを文章化する記述力と、それを相手に伝える表現力を身につける。また、多様な考えを受容する寛容な姿勢を養う。《思・判・表》《主・多・共》		
評価の観点	基礎的な漢字・語句の知識を身につける。特に論説文において用いられる抽象概念を理解し、習得することを目指す《知識・技能》		
	問いに対して自分の考えを論理的に表現することができているか。自分の考えを他者に表現することができているか。《思考力・判断力・表現力》		
	積極的に考えようとする姿勢が身についているか。他者の考えを尊重する姿勢が身についているか。他者との意見交換を経て考えを発展させようとする姿勢が身についているか。《主体性・多様性・共同性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………… 80%
- C : 「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D : 未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考 査 ま で	①説明文「ダイコンは大きな根？」 (稲垣栄洋) ②説明文「ちょっと立ち止まって」 (桑原茂夫)	①説明的な文章における段落が果たす役割を理解する。また、説明をよりわかりやすくし、読者の理解を助けてより興味を持って読むようになされている文章の書き方の工夫を理解する。 ②説明的な文章の「序論・本論・結論」という段落のまとまりに着目し、要旨を捉える。また、事例が主張に説得力をもたせていることを理解する。	〈使用教材〉 『国語Ⅰ』
1 学期 期 末 考 査 ま で	①物語文「シンシュン」(西加奈子) ②「情報社会を生きる」	①小説の登場人物が直面する問題を自分事として考え、主体的に思考する姿勢を身につける。また、比喻表現に着目し、文学表現の面白さを体感する。 ②目的や相手に応じた「情報の整理のしかた」を知り、相手に理解してもらえるように説明するにはどうすれば良いかを考える。また、伝える目的や相手、内容に応じた説明があることを理解する。	〈使用教材〉 『国語Ⅰ』
2 学期 中 間 考 査 ま で	①物語文「大人になれなかった弟たちに…」(米倉斉加年) ②記録文「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」(鈴木俊貴)	①戦争文学を通して戦争と当時の状況について理解を深めることをねらいとする。本文に対して自ら問いを立てることによって、当時の状況や心情を論理的に推定する力を養う。また、行動や情景の描写を場面と関連付けて丁寧に読む。 ②自然科学系の文章への興味・関心を深めることをねらいとする。論理的な思考力のプロセスを学び、将来の探究活動や研究活動へと展望を広げる。	〈使用教材〉 『国語Ⅰ』

2 学期 期末 考 査 ま で	①物語文「星の花が降るころに」 (安東みきえ) ②意見文「考える人になろう」 ③俳句	①場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。また、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができるようになる。また、伏線に着目し、文学表現の面白さを体感する。 ②読書が、知識や情報を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを実感し、人生をより深く生きていくうえで有用であることを学ぶ。 ③常識や先入観を抜け出して、物事を新たな視点から捉える多角的な視点を養うことをねらいとする。	〈使用教材〉 『国語Ⅰ』
3 学期 期末 考 査 ま で	①物語文「少年の日の思い出」 (ヘルマン・ヘッセ) ②話し合いの展開を捉える	①小説の登場人物の葛藤を通して、「正義」とは何か、「悪」とは何かを深く考えてみる。登場人物の行動を感情的側面や倫理的側面、法的側面から視点を変えて多角的に捉えることにより、思考力・判断力・表現力を涵養する。 ②話し合いの話題や展開を捉えて的確に話す。相手の発言を正確に理解する。自分の考えをまとめる。	〈使用教材〉 『国語Ⅰ』

【成績評価の概要について】	
(1) 学期における評価の対象（国語Ⅱ） ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③ 授業内の小テスト・提出物や、授業への取り組み姿勢などの平常点：60点（関心・意欲・態度などの評価） (2) 学期評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。 (3) 年度末評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。	

教科「国語」シラバス

1. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 国語Ⅱ	2	中学 第1学年	『的確につかむ 文法の学習』浜島書店 『基礎から学ぶ書く力 ロジカル国語表現Ⅱ』好学出版 ※スタディサブリ通年講座「中2 国語(光村図書 国語)」の「文法基礎(1)(2)」で、言葉の単位と自立語について扱いあり。
学習の到達目標	①日本語についての文法を学び、その知識を活かして言語を正確に用いることができる(知識・技能) ②正しい日本語を身につけることで、言葉を通した自己表現力を高める(思考力・判断力・表現力) ③他者との対話のなかで、他者の考えを論理的に把握できるようになる(主体性・多様性・共同性)		
評価の観点	現代日本語についての文法事項を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。《知識・技能》		
	日常生活で使用している日本語に対する理解を深め、言葉を正確に使うことで自己の表現力を磨く。また、他者との対話や議論を通して、自己の考えを表現する力を身につけている。《思考力・判断力・表現力》		
	自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。《主体性・多様性・共同性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの…… 80%
- C : 「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D : 未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考 査 ま で	①言葉の単位（教科書） 1 文章・段落 2 文・文節・単語 3 主語・述語 4 修飾語 ②言葉の使い方・文の組み立て （ロジカル）	①文法学習の基礎知識を習得する。特に、後の学習につながる「文節」と「単語」については、それぞれの違いが分かるようになることを目標に、しっかり整理しながら学習する。 ②仮名遣いや誤字など、文章表現の基礎を学習する。	使用教材 『的確につかむ 文法の学習』 『基礎から学ぶ書く力 ロジカル国語表現Ⅱ』
1 学期 期 末 考 査 ま で	①言葉の単位（教科書） 5 接続語・独立語 6 連文節 7 並立の関係・補助の関係 ②文の組み立て 8 文の成分・組み立て 9 指示する語句・接続する語句	①文の組み立てを理解し、主語・述語を見極められるようになることで、読解力向上へとつなげていく。 ②接続後が論理を導いていくことを理解し、適切に使えるようにする。	使用教材 『的確につかむ 文法の学習』
2 学期 中 間 考 査 ま で	①自立語と付属語 ②活用 ③品詞 ④名詞	①自立語と付属語、活用、品詞の概念を理解する。 ②体言と用言について、主語と述語からなる短文を作りながら、識別ができる。	使用教材 『的確につかむ 文法の学習』
2 学期 期 末 考 査 ま で	①動詞の活用	①動詞の活用の種類を知る。また、それぞれの活用表を覚え、動詞を自在に活用し、活用の種類を見極めることができる。 ②基本形・活用形・活用の種類などの用語の意味を押さえ、設問に対しての適切な答え方を身につける。 ③例語を自分で探し、日本語の豊かさにふれる。	使用教材 『的確につかむ 文法の学習』
3 学期 期 末 考 査 ま で	①形容詞の活用 ②形容動詞の活用 ③古文の読み方	①形容詞・形容動詞の活用の種類を知る。また、それぞれの活用表を覚え、形容詞・形容動詞を自在に活用し、活用の種類を見極めることができる。 ②古典の原文にふれ、日本語の豊かさを味わう。 ③古典の鑑賞を通し、現代にもつながるものの見方や感じ方、読み継がれてきた意味などを考える。	使用教材 『的確につかむ 文法の学習』 『国語1』（国語Ⅰの教科書）

【成績評価の概要について】

(1) 1学期における評価の対象（国語Ⅱ）

- ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ③授業内課題の提出や、授業への取り組み姿勢などの平常点：40点（関心・意欲・態度などの評価）

(2) 学期評定の算出方法

- ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

(3) 年度末評定の算出方法

- ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。